

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：平成 28 年 7 月 12 日 報告者：浅井 千春

行事種別	研究会	行事番号	160006092
開催日	平成 28 年 7 月 10 日 (日)		
時 間	開 始	10 時 00 分	終 了 16 時 30 分
場 所	名古屋市立大学医学部本部棟 4F ホール (所在地 名古屋市)		
テーマ	①「硝子円柱の基礎～硝子円柱の臨床的意義について～」 ②「初心者歓迎!!日当直に役立つ尿沈渣の基礎」		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	①医療法人 青山病院 平田 基裕 ②名古屋大学医学部附属病院 岩崎 卓識 豊川市民病院 永井 君子		
講 師	①「硝子円柱の基礎～硝子円柱の臨床的意義について～」 1) 岐阜大学医学部大学院 病態情報解析医学 稲垣 勇夫 2) 岐阜大学医学部附属病院検査部 牛丸 星子 3) 岐阜大学医学部附属病院検査部 石田 真理子 ②「初心者歓迎!!日当直に役立つ尿沈渣の基礎」 1) 特定医療法人衆済会 増子記念病院 平田 弘美 2) 藤田保健衛生大学 医療科学部 星 雅人 3) JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 鈴木 康太 4) JA 愛知厚生連 江南厚生病院 伊藤 康生 5) 社会医療法人明陽会 成田記念病院 望月 里恵		
内 容	①円柱の基本である硝子円柱の臨床的意義を、研究成果と合わせて講義いただいた。硝子円柱の数とCKDステージの関係性など、硝子円柱の重要性を再認識させられる講演であった。 ②「尿沈渣検査法 2010」にそって写真を交えて解説していただいた。間違いやすい成分の鑑別方法などや、日常遭遇する事が少ない成分の写真もあり、当直が始まる新人にも役に立つ有意義な講演内容であった。		
参加者	総数：95 名（会員 95 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、 その他 0 名）		
共催、後援など			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般研究班 提出日：平成 28 年 12 月 4 日 報告者：浅井 千春

行事種別	基礎講座	行事番号	160013281	
開催日	平成 28 年 11 月 13 日 (日)			
時間	開始	09 時 30 分	終了	16 時 30 分
場所	名古屋大学医学部基礎棟 3F 第一講義室 (所在地名古屋市)			
テーマ	基礎を学ぼう尿沈渣!!初心者歓迎!!日当直に役立つ尿沈渣の基礎-実践編-			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	1) 藤田保健衛生大学 医療科学部 星 雅人 2) 公立西知多総合病院 臨床検査科 服部 聡			
講師	1) 心腎連関-尿中アルブミン測定的重要性を含めて- 平光ハートクリニック院長 平光 伸也 2) 尿沈渣スライドカンファレンス 公立西知多総合病院 臨床検査科 加藤 節子			
内容	<p>&lt;認定一般技師認定更新指定研修会：日臨技承認番号 一般 16-006 単位 20 単位&gt;</p> <p>午前中の前半は、平光ハートクリニックの平光伸也先生より「心腎連関～尿中アルブミン測定的重要性を含めて～」について講演いただいた。腎臓を中心として心臓、貧血、血圧は密接に関係しており、特に心疾患の場合であっても、腎臓の保護を目的とした治療を行うと予後が極めて良くなることが示された。さらに、腎の保護には、造血作用として知られているエリスロポエチンが有用であり、単に造血器に働いているだけではなく、腎臓の保護や種々の細胞の成長因子として作用している可能性が示された。新人向けに極めて優しい用語を用いて腎臓の基礎から説明して頂き、受講生の理解は深まったと考えられた。</p> <p>後半は、加藤節子技師より、尿沈渣のスライドカンファレンスの講演をしていただいた。スライドカンファレンスは聴講者参加型の設問形式で行われ、尿沈渣標本作成のポイントの解説の後、血球成分、上皮成分、円柱、結晶成分の各項目に関する鑑別点、特に初心者が間違いやすい類似成分との比較や、ここだけは押さえてほしいというポイントなどを中心に解説していただいた。また、普段見ることの少ない臨床的意義の高い成分についての解説もあった。今回は、日当直でしか尿沈渣を見ない技師や新人技師が多数参加しており、日頃尿沈渣標本を読むにあたりどのようなことに気をつけたいのかについても聞くことができ有意義であった。</p> <p>午後からは、4 班に分かれ各班を班員が 2-3 名で担当した。尿沈渣の基礎的成分は、実際に検鏡していただくスライド 25 枚の検体のカラー写真と解説を 1 人ずつ配布し、自</p>			

	<p>由検鏡で班員が質問に答える形で行なった。また見落としてはいけない疾患（尿路感染症、IgA 腎症、ファブリー病、異型細胞）を症例として提示し、まず検体を検鏡して、どんな成分が出ているか、疾患はなにが考えられるか推測してもらったあと解説し、その上でもう 1 度検鏡していただいた。日当直でしか尿沈渣を見ない技師や新人技師が、普段なかなか見られないイクラ状のろう様円柱、フィブリン円柱、結晶、マルベリー小体、ウイルス感染細胞なども供覧していただいた。間違いやすい成分についても標本を提示し、区別するポイントも学んでいただいた。</p> <p>最後に参加者全員を 8 つのグループに分け、グループディスカッションを行った。テーマは一般業務に関わる全般で、実務・運用、精度管理、教育まで幅広くディスカッションを行っていただいた。ディスカッション後、各グループからディスカッションの内容を全体に報告していただき、総合討論を行った。施設ごとの報告内容として、尿沈渣に関しては、染色の有無はどうしているのか、技師間における内部精度管理はどのように行っているのか、沈渣の機械判定をどう扱っているのか、特殊染色を行っているのか、赤血球形態の臨床への報告はどうしているのか、等が挙げられた。また尿検査以外では、髄液検査における細胞数の報告方法が整数なのか <math>\times/3</math> で報告するのか、が挙げられた。これらのディスカッションにより、参加者にとっては他施設との運用や改善点の情報交換となり、また班員にとっては各施設における課題や今後の研究班活動における教育重点事項を確認できることとなり、参加者全員にとって非常に有用なものであった。</p>
参加者	総数：65 名（会員 65 名、県外 8 名含む）
共催、後援など	

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属 一般研究班 提出日：平成 29 年 2 月 17 日 報告者：浅井 千春

行事種別	研究会（精度管理事業）	行事番号	160013359	
開催日	平成 29 年 2 月 11 日（土）			
時間	開始	15 時 30 分	終了	18 時 00 分
場所	名城病院地下大会議室（所在地 名古屋市）			
テーマ	1.平成 28 年度愛臨技精度管理報告会 2.特別講演 命を脅かす寄生虫			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	1.名古屋大学医学部附属病院 岩崎卓識 2.愛知医科大学病院 山口京子			
講師	1.名古屋大学医学部附属病院 岩崎卓識 JA 愛知厚生連豊田厚生病院 鈴木康太 医療法人青山病院 平田基裕 社会医療法人明陽会 成田記念病院 望月理恵 2.愛知医科大学医学部 感染・免疫学講座 角坂照貴			
内容	1. 平成 28 年度の精度管理報告会として、昨年 8 月末に実施した一般検査分野の精度管理報告を行った。内容は、尿定性項目（蛋白、糖、潜血）と便潜血反応検査およびフォトサーベイについての結果の概要とその解説を行った。 2.後半は、愛知医科大学医学部の角坂先生より『命を脅かす寄生虫』と題して御講演いただいた。角坂先生においては、これまで一般検査研究班の基礎講座や臨床一般検査研究会のスキルアップ講習会などで 15 年以上にわたり実習、講師として御指導頂いてきたが、この 3 月で退官されるということで、最後の記念講演をお願いした。寄生虫検査は昔と今、検出される虫卵はこの 10 年の間でも変わってきている、現在多く検出される虫卵について、検査する際の注意点などについて、詳しく解説して頂いた。また、先生が今、検討している虫卵の検査法についても紹介して頂いた。講演後は寄生虫検査について講義を聴く機会がなかなかないこともあり、普段感じている疑問点などについて会場から多くの質問が寄せられ盛況な会となった。			
参加者	総数：58 名（会員 54 名、賛助会員 3 名、関連団体 1 名）			
共催、後援など				